

よかよかだより

登録団体一覧と使用済み切手収集の注意点

◆各団体の活動内容は「登録団体一覧」をチェック!

当センターには現在、34ものボランティア団体が登録されています。活動は地域づくり、子育て支援、福祉、国際交流、環境保全、食育など多岐にわたります。

当センターでは、これらすべての団体の活動を知ることが出来る「広川町ボランティア活動センターよかよか登録団体一覧」を作成しています。広川町社会福祉協議会ホームページの「ボラ



ンティアセンター「よかよか」
↓「広川町ボランティア活動センター団体一覧」からご覧ください。

登録ボランティアに協力を依頼するときは、1カ月前までに当センターへご連絡ください。



◆使用済み切手を収集するときの注意点

本紙10月号の「自宅でできるボランティア活動」で、使用済み切手の収集について紹介しました。今回は収集時の注意点をお知らせします。

- ・日本切手と外国切手は分けて収集しましょう。当センターにはそれぞれの回収ボックスを設置しています。
- ・切手の周りは約1センチメートル残しましょう。切り取るときは、切手のギザギザ部分を傷つけないようにしてください。
- ・複数枚貼ってある切手は、まとめて切り取りましょう。
- ・破れや汚れがある切手、段ボール貼りの切手、水はがしされた切手は、収集の対象外です。
- ・ご協力のほど、よろしく申し上げます。

◆登録情報を変更した場合はご連絡ください

ボランティアコーディネーターは登録情報をもとに行っています。登録情報が変わった場合は、

当センターへご連絡ください。

◆年末年始の休館について

12月29日(土)〜1月3日(木)、当センターは休館となっています。1月4日(金)から通常通り開館しますので、ご注意ください。



使用済み切手の回収ボックス

◎ボランティア活動センター
「よかよか」(はなやぎの里2階)
平日8時30分〜17時15分
☎0943・32・7073
☎0943・32・7073
FAX 0943・32・7074

広川町に残る城と館跡

古賀の館を守った稲員氏

古賀館を守った稲員氏

一つです。攻めて来た横岳勢は、すぐに落ちると侮っていたのでしよう。

知徳城（現在の大字広川字内村）が、龍造寺政治家の家臣である横兵頼次の軍勢に攻められ落城したのは、天正13年（1585年）5月10日のことです。その中で横岳勢は勢いに乗り、矢加部氏の川瀬館や萩尾氏の長延館、稲員氏の古賀館も攻めています。

このとき古賀館を死守して横岳勢を追い返したのが、稲員式部丞安守です。稲員一族の激しく堅固な防御を前にした横岳勢は、本来の目的であった山下山城（現在の八女市山下）へ向かうことを諦めざるを得ませんでした。

このときの稲員安守の働きに対して、大友義統が与えた感状が「稲員家文書」の中に残っています。読み下すと、
 今度、其の表に於いて、逆徒等取り懸り候刻、忽ち追ひ払い恙無きの由、手柄比類無く候、弥いよ堅固の覚悟専一に候、猶、朽網入道申すべく候、恐々謹言

七月廿一日 義統(花押)
 稲員式部丞殿

とあります。ちなみにこの文書にある「朽網入道」とは、大友家の重臣の一人である朽網宗歴のことです。また、この文書に添えられた「朽網宗歴添状」（「稲員家文書」）には、

今度、逆徒等其の表に於いて、取り懸り候処、忽ち之を追い払い、恙無きの由、御礼の趣披露せしめ候、誠に比類無き御働らきの次第、御感深重の段、具に申すべき旨、上意に候、其の堺別して、御下知を加えられ候条、弥いよ御警固の御才覚肝要に候、恐惶謹言

七月廿一日

宗歴(花押)
 稲員式部丞殿
 御館

とあります。どちらとも月日だけで年号は記され



知徳城や古賀館が攻められたときの功績をたたえ、大友義統から稲員氏へ与えられた感状（「稲員家文書」）

ていませんが、包紙では「天正十三年七月廿一日」と記されていたものが、後から「天正九年」に訂正されています。「家勤記得集」に知徳城攻防戦が天正9年（1581年）と記されていることの調整ではと考えられます。

戦国時代の広川谷の城主たちは、終始一貫して豊後国大友氏の旗下として活躍しました。このことが幾度となく敵勢の襲来を受けた大きな理由です。

（広川町郷土史研究会）

広川町古墳資料館だより

来年は亥年です。日本各地では縄文時代の猪形土製品（写真）が多数出土しています。

猪形土製品は、狩猟の無事を祈る祭祀に使われたものと考えられています。猪は縄文人にとって、冬の間のタンパク源でした。脂肪の多い獣の肉は人々の体を温めたことでしよう。

狩猟のときにつかまえた猪の子どもを、丁寧に埋葬した例も見つかっています。犬と同じように飼育しようとしたのかもされません。

広川町の太田地区遺跡群（八女丘陵北側）でも、大型獣を捕まえるための落とし穴が多数発見されています。穴を掘る労力から考えても、確実に捕まえた食糧源であったことがわかります。

